

道具に興味津々の様子でした。各自で持ってきたハンカチなどを洗濯板で洗い、「水が冷たい。」「時間がかかる。」など現代の洗濯機と比べると苦労することを体感しました。また、水が節約できるなど洗濯板の良い点についても意見を出し合いました。

高知県立森林研修センターでは、森林散策とアスレチック体験をしました。講師が敷地内に生育している木や植物を紹介し、児童らは匂いを嗅いだり触れたりして、木の実や葉の様子、木肌などの特徴を観察しました。昔は葉書として使われた「タラヨウ」の葉の裏に爪楊枝で文字や絵を書く体験もしました。



この学習は小学3年生の社会科と関連づけて実施され、事前学習を行った後、実際に木製の道具に触れ、自然の中での体験活動を行うことにより、森林資源の活用と昔の人の知恵や工夫について学びを深めることができました。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金

林野庁の国庫金事業

地域住民や森林所有者らが協力して行う里山林の保全、森林資源の利活用などの取り組みを支援しています。令和6年度は31団体が県内各地で活動を行いました。

萩中新改の会（中土佐町）の取り組み

中土佐町大野見萩中、下ル川は山深い場所にある山林に囲まれた里です。高齢化により住民から山の手入れが出来ないと の声があがつたことから、平成28年度に活動組織「萩中新改の会」を地域住民10名で設立し、農作業と山の仕事を兼業しながら里山の整備を進めてきました。

設立当初はスギ・ヒノキ植林の下草刈り、枯損木の除去や侵入竹の除伐などをやってきました。平成30年度には緑の募金の苗木支援を受け、地域住民とともに川沿いに桜を植樹しました。以降毎年2~3回草刈りを行うことで立派に育った桜並木は500mも続き、住民は春に咲く桜を楽しみに待つようになりました。

最近では、活動の趣旨が地域に浸透し、住民からの依頼で下草刈りや間伐、運搬車を使って搬出なども行っています。搬出し

た材で薪を作り、構成員や地域住民へ配布したり、周辺施設へ販売したりしています。この地域では薪ストーブを利用する人が増え、他に暖炉、風呂、茶窯などにも利用しています。

Uターンの若者がメンバーに加わるなど新たな体制で今後も活動を継続し、元気で明るい地域づくりにつなげていきます。



間伐した木を130cmほどの長さに玉切りにして、搬出します。



小屋で薪割機を使って薪割りをしています。